

四、日本國防學ノ系統立テ

1. 日本國防學ハ日本學ノ一ツナリ。從ツテ日本學ノ系統ヨリ云ヘハ、客觀的側面ニオケル一客觀學ナリ。然レトモ日本學ハ如何ナルモノナリトモ有機體學ナレハ、切離サレタル國防學カ存スルニ非ス、全日本學ノ有機的系統ヲ內在スルモノナリ。茲ニ日本國防學カ總力國防學タラサル可ラサル所以モ存ス。モシ何時如何ナル場合ヲ問ハス我カ國々防ニシテ純有機的意味ヲ有セストセハ、ソハ日本的ニ非サルト同時ニ日本學乃至實學ノ意義ヲ缺クモノタリ。モシ近時ノ西洋諸國カ戰爭或ヒハ國防ニオイテ有機性、全体性ヲ見出ストセハ、ソハ必要ニ迫ラレタルモノナリ。然ルニ日本ノ有機性、全体性ハ全く當然ノコトニシテ、然ラサレハ本來ノ意義ヲ失シタル、狀態ニシテ、常ニ過度期ノモノタルノミ。

2. 日本國防學ノ系統ハコノ學ノ内面ニ日本學ノ全体系ヲ内包セシメ、顯ハニ國防ソノモノヲ立テツツ、ソノ全体系ヲ再組織スル所ニ成立ス。然レトモコレニ困難性アリ。ソハ内包サルヘキ日本學ノ全体系ニ鮮明性ヲ缺キ、

更ニコノ全体ヲ全体タラシムル肢体ニ満足スヘキモノナシ。

四二

喩ヘハ今現ニ吾人ハコレソト思ハルル日本學ノ体系モ、眞ニ現在ヨリ將來ヲ指導スルニ足ル日本聖戰學、政治學等、明快ナルモノヲ見出スニ、頗ル困難ヲ感スルニ非スヤ。日本經濟學ニ至リテハ、最近漸クソノ必要性カ感シラレ、コノ學ノ背景トナル日本哲學カ問題ニサレツツアル状態ナリ。吾人ハイチ早く日本教育學ノ建設ニ邁進シ時ニハ日本國家學ノ建設ニ見ルヘキモノノ出現アリツツアレトモ、爾餘ノ日本諸學ニ至リテハ、甚タシク貧弱ニシテ、來タ問題ノ所在スラ把握サレヲヌコト多シ。故ニ正シクハ全日本學ノ大成ヲ俟チテ日本國防學カ完成シ得トナスヘキナリ。然ラハ日本國防學ノ研究者ニハ二重ノ問題カ課セラレキル筈ナリ。

3. 日本國防學ハ總テ國防國策ノ上ニ顯現ス。然レトモコノ段階ニハ二重ノ過程ヲ伴フ。則チ直接及ヒ間接カコレ。間接トハ國防學ノ根乃至礎石トナリ且ツ背景ヲ動クモノニシテ即チ日本哲學ハ眞史觀ヲ内包スノコトナリ。間接ナリトモ粗末ニシ難シ。之ヲ缺キテハ國防學ハ動搖スルモノタルヘシ。次ニ直接ニハ、直接ハ直接ト直接ハ間接トアリ。後者ハ日本國防學ノ全体性ヲ扱ヒ、前者ハコノ學ノ諸肢体ヲ扱フモノトス。全体性ヲ扱フモノ

ハ、假ニコレヲ日本國防通學ト呼ビ得ヘシ。通學ハ國防國策ニ顯現スレトモ、ソレハ常ニ全体性ノ意味ニオイテナリ。全体性ノ意味ニオイテトハ、ソノ國策ニ直面スル諸肢体ニ、恰モ影ノ形ニ添ヘルカ如ク添ヘルモノニシテ、同時ニ又國防學ノ如何ナル肢体ヲモ相互ニ、有機的ニ關連セシメラルモノトシテノ意ナリ。例ヘハ政治國防學ナル一肢体ト日本聖戰學ナル一肢体トカ、ソレ自身相違スルコト恰モ人間ノ手ト足カ相違スル如クナリ。然レトモ、同時ニコノ人間ノ手、人間ノ足タル如クニ、通學乃至全体學ニオイテ關連サセラレ且ツ歸一セシメラルヘシ。

カカル點ニ日本學乃至日本實學ノ著シキ特長アリ。國防國策ニオイテモ、ソノママニ顯現ス。即チ例ヘハ我カ國ニオイテハ、軍政ノ一元化ニナラサレハ、眞ノ國防体制ヲ整ヘル能ハス。クラウゼウイツノ云フ如キ戰爭ヲ政治ノ一手段ト見ル行キ方、ル、デ、シ、ド、ル、フ、ノソノ逆ナル行キ方ノ孰レモ、時處人ノ相違ニヨル相對的見解ニシテ、日本のニハ虛無法ニヨル同格否定ニヨリ、却ツテ絶對ノ肯定ヲ生ミ軍政ノ一元化ニヨル有機的体制トナラサル可ラサルコト、恰モ會テノ察政一致ノ主張ノ如ク又正シク解セラレタル本地垂跡ノ如シ。

正シクハ日本哲學ハコレカ全國防學者ニ理解サレンニハ、敢テ國防學ノ系統内ニ入レル必要ナシ。然レトモ尠クモ日本國防學カ「學」トシテノ儼然タル成立ヲ爲シラレハ、ソノ中ニ含有サルモノニシテ、必要ニ應シテハ何時タリトモ取出スコトカ可能ナル筈ナリ。而モ今吾人ハ全然新シク日本國防學ノ樹立ニ向フ者ナリ。然ラハ日本哲學ハ陰ノ立場ニ立チテ、宇宙創造ノ瓊^{ユヅ}矛^コノ役割ヲ果スヘシ。

國防學ハソノ全面ヲ通シテ、歴史的並ヒニ本質的ニ規定サレサルヘカラス。日本學ニオイテハ、ソノ二ツハ別々ノモノニ非ス、本質的ナルモノノ史的發展ニコソハ、ソノ純有機性力存ス。例ヘハ神人合一ノ純粹ナルモノカ血ニヨリテ繋カレツツ、日本國家ノ發展行路ヲ踏ムカ如シ。吾人ハコノ行程ヲ史的ニ見テ眞史觀ヲ得、本質的ニ見テ眞ノ哲學乃至日本哲學ヲ得レトモ、正シクハ兩者ハ日本哲學ニ包括セシメラル。吾人ハ日本國防學ニ取り間接ナレトモ、コノ學ノ系統ノ下段構成^{カクセイ}トシテソレヲ要求ス。

日本國防通學ハ全体トシテノ純有機學ニシテ、肢体トシテノ純有機學ヲ内包スルト同時ニ、如何ナル肢体國防學ニモ内在ス。カカル通義ハ全ク獨

自ノモノタラサルヘカラス。

日本國防通學カ扱フトコロハ廣汎ナリ。コノ學ノ充實性ヲ期スル爲ニハ、輕々ナル概論ニ終ラス、細大洩ササル研究ト結果ノ獲得ヲ要ス。而シテソノ扱フトコロハ次篇ニ詳カナレトモ、國防學ノ意義規定、体制規定、目的決定等孰レモ國防學ノ全体性ニ關スルモノヲ扱フト共ニ、或ヒハ意義ニオイテ、或ハ本質ニオイテ、或ハ目的ニオイテ、巧ミニ日本學カ織込マルモノトス。且ツココニ指ス日本學ハ島國日本學ヨリ大日本學ニ移ルモノヲ指ス。但シソノ全面ニ亘リテ組織付ケルニハ尨大ナル内容トナルヘシ。依テ我カ國々防ヲ中心トシ他山ノ石タルナチス、アツシヨ、ソ聯ソノ他ノ國防ヲ十分ニ絞リツツ規定サレタル現在ノ總力國防ヘノ充實ヲ廻リ、將來ノ我カ國ノ國家目的ニ適シキ東亞學、大亞細亞學、八紘一字實學ニ未來ヲ見ツツ、遡ツテハ現在ノ國防ヲ將來ノ國家目的ノ達成ニ添ハシムヘク必要ナルモノヲ、必要ノ程度ニ留メツツ拾ヒ擧ケテ、役立タシムルコトヲ内容トスヘシ。又、日本國防通學ハ現下——理想ニ非ス——ノ我カ國々防ヲシテ眞ニ總力國防タラシムヘキ全面的體系ヲ示現スルモノナリ。故ニ、ソノ體系カ虛學タラス實學トナルタメニハ、自ラニ國內革新ニヨル總力的國防化ノ源泉タラシメラルル如キモノタラサル可ラス。從ツテ壓縮サレタリトモ、依然トシテ尨大ナル研究トソノ收績ヲ

得サルヲエス。輕々ナル通義、不鮮明ナル論述ハ無キニ如カス。

6. 日本國防學ニオイテ、國防ソノモノノ實質上ヨリ見ル時、劈頭第一ノ肢體學ハ何ヲ措キテモ、地盤タル日本聖戰學タラサルヘカラス。

日本戰爭哲學ノ問題ハ頗ル興味ヲ添ヘルモノナレトモ、ソハ日本聖戰學ノ名ニテ十分ナリ。又、日本戰爭學ト日本聖戰學ハ別箇ノモノニ非サレトモ、後者ニオイテソノ内容ヲ最モ忠實ニ表ハスモノト信ス。蓋シ日本戰爭學ハ必然的ニ日本聖戰學タラサル可ラサレハナリ。而シテコノ學ハ聖戰ソノモノノ姿ヲ描キ出ササル可ラサレトモ、同時ニ又最モ加上サレタル高次ノ總力戰學ニナルコトヲ必要トス。但シコノ學ガ聖戰學タルニハ、通義ノ全体性カ示ス國家目的ニ添フコトヲ必須ノ眼目トスルモノナリ。コノ學ニオイテモ現實ヲ基底トシテ、必要ノ限度ニ過去ニ遡リ、將來戰ニ向フ加上學體制ヲ内容トスヘシ。

7. 第二ノ肢體學ハ政治國防學ナリ。總力戰學トシテノ日本聖戰學内ニモ政治戰學ガ存在スレトモ、ソハ戰爭ソノモノヲ廻ル政治問題ヲ扱フニ歸着ス。然ルニ國防ソノモノノ見地ヨリセル政治ハ、内政外政ノ如何ヲ問ハス、國防ノ爲メノ政治ニシテ、更ニ廣汎ニ亘ルモノナリ。

政治國防學ハ日本國防學ソノモノノ如ク、全ク新シキ一實學タルヲ要ス。即チ總力國防ノ爲メニ
スル學タリ。從ツテ單ナル日本政治學ニ非ス、日本國防ノ組織並ヒニ國策ノ生スル如キ實學タ
ラサルヘカラス。但シコノ學モ亦必要ニ應シテ過去ニ遡ルヘキモ、要ハ將來性ノアル學タラサ
ルヘカラス。又、日本國防ノ体制ハ有機體ナリ。故ニソノ全體規定ヲ沒却セル政治國防學ノ如
キハ非ルコトヲ深く考察セサル可ラス。

8. 第三ノ肢體學ハ經濟國防學ナリ。コノ學モ亦政治國防學ノ場合ニ同シ。
特ニ經濟國民ハ國防有機體ヲ通シテ地盤帶ヲ爲スモノナレハ、國內國外ヲ問ハス重大ナル總力
的經濟機構ヘノ進展ヲ見サルヘカラス。即チソノ部門力著シク擴張サレテ財政、金融、商工、
農漁、貿易、資源、交通ノ全面ヲ有機的ニ總括セルモノタルト同時ニ、皇國經濟ノ内面性ト外
面性ニ有機的ニ關連シ且ツ將來性アル經濟力ノ充實ヲ目標トスル經濟學タルヲ要ス。

9. 第四ノ肢體學ハ教化國防學ナリ。國防ニ取リテ教化如何ニ重大ナル役割
ヲ果シタルヤハ、既ニナチス、フアツシヨニオイテ試験濟ミナリ。

教育國防學ト教化國防學ハ「教育」ナル意義ヲ自由ニ行使セハ用ヒ得レトモ、正シクハ教化國
防學ヲ以テ、内容ノ凡テヲ表ハシ得ルモノトス。蓋シ教育國防ト云ヘハ一般通念トシテ國內的

ナルモノニ限定サレ易ケレハナリ。次ニ、聖戰學ニオイテハ教化戰ハ思想戰學内ニオイテ扱ハレルヲ通則トスルモ、日本國防學ニ在リテハ、特ニソノ肢體性ノ重要サニ鑑ミ、一肢體學トシテ取上クル必要アリ。現ニ列強ニ較ヘテ我カ國位國內教化力不統一ニシテ國外教化ノ拙劣ナルモノハナキニ非スヤ。

10. 第五ノ肢體學ハ自然國防學ナリ。コノ學ハ政治、經濟等ニ見ラルル文化國防學ニ對スルモノニシテ、主トシテ廣義ニ解セラレタル地理及ヒ選擇サレタル應用化學ソノ他ニオイテ、國防目的ノ徹底ニ役立タシメラルモノトス。

國防ヲ廻ル應用化學、地理、醫學等カ如何ニ大切ナルカハ多言ヲ要セス。特ニ我カ國カソノ大抱負ヲ實現スル爲ニハ、他ノ諸肢體學ニ劣ラサル重要性ヲ帶ヒルモノタリ。

11. 第六ノ重大ナル一肢體學ハ武力國防學ナリ。尠クモ日本國防學トシテハ、獨自ノ意味ニオイテソノ重要サカ認メラレサルヘカラス。獨自ノ意味トハ我カ國カソノ最モ著シキ特長ヲ武ニオイテ所有スル爲ナリ。同時ニ又、聖戰學カ凝リテ實現スヘキ、國防トシテハ最高ノ性質ヲ示ス學トシテ、ソ

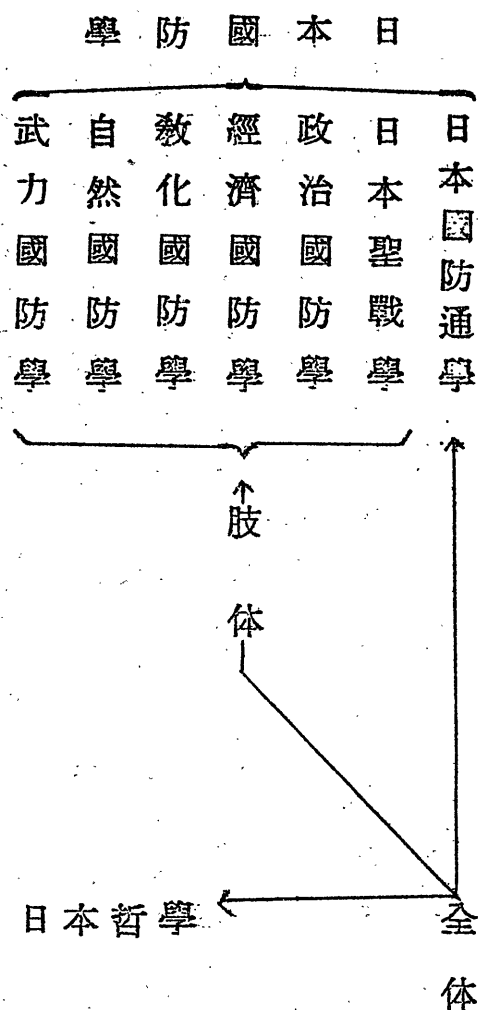
ノ學ト並ヒ、ソノ存在カ認メラレサル可ラス。

モシ富永伸基ト共ニ印度ヲ幻想ノ國、支那ヲ文乃至政治ノ國トスレハ、我カ國ハ方ニ武ノ國ナリ。古事記ニオイテ國修理ノ第一步カ天瓊矛ニヨリ始メラレタルニテモ知ルヘシ。

12 日本國防學ハ繰返シ述フル如ク日本有機體國家ノ學ナリ。從ツテコレヲ學ノ見地ヨリ見ル時ハ、一切ノ學ヲ内包スルモノトス。然レトモ日本學ハ有機的ナリ。故ニ如何ナル特殊學モ相互ニ有機的關連ヲ有ス。加フルニ日本のトハ單純化ノ意味ナリ。カクテ極度ニ單純化サレタル日本國防學ノ拔萃ナラヌ諸肢體學ハ上述ノ如シ。

モシ吾人カ西洋學的分類ニ隸屬スルトセハ、日本國防學ノ分類ニアリテモ、恐ラク細分サルヘシ。然レトモソハ複雑化ノ過程ヲ辿ルモノニシテ、日本のナル單純化ニ進ムモノニ非ス。吾人カ欲スルハ重要肢體ニシテ、諸學分離モ及フ限り重要肢體學内ニ含マセント欲ス。而モ日本學ハ有機的タルヘキヲ以テ、ソコニ間隙ヲ生ス。カカル意味ハ吾人カ既ニ日本教育學ニオイテ力説シ來レルモノニシテ、從來ノ教科過程ノ最大缺點ハソノ内容ニ有機的關連ノアルコトカ頗ル薄ク、云ハハバラバラノ分解教育ニ成リ來レル點ニアリ。

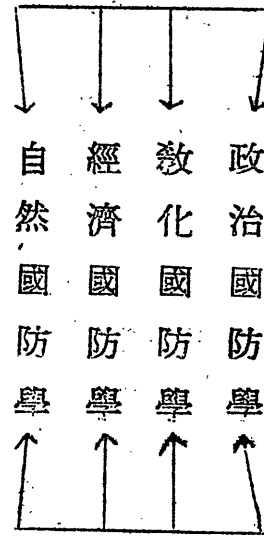
13. 吾人ハ上述ノ結果ヲ絞リテ系統立テナトス。系統ニオイテ次ノ如クニナルモノトス。



即チ日本國防（有機體）學ニオイテ、顯ハニコノ學ノ全体性ヲ示スモノハ日本國防通學ニシテ、裏ニ土台ヲ與ヘルモノハ日本哲學ナリ。而シテコノ全體ノ肢體トナルモノカ六ツアリ、コレ等ハ孰レモ頭、手、胸、腹、足等ノ大組的役割ヲ果スモノトス。之ニヨリテ一切ヲ網羅サレ、爾餘ノ細分的諸學ハソノ内ニ含有サルモノトス。

14. 肢體學ノ系統ハ次ノ如シ。

武力國防學



日本基本戰學

武力國防學ハ國防ソノモノニ取り、政治、教化、經濟、自然諸國防學ノ頂位トナルモノナリ。例ヘハ我カ國ノ政治トシテハ、武力國防ノ体制下ニ行フコトカ最も效果的ニシテ且ツ有機性ヲ發揮ス。或ル意味ニオイテハ最高ノ平和ハ最高ノ武力ニヨリテノミ保タルヘク、コノ點カ政治ニモ強ク反映スル筈ナリ。日本聖戰學ハ我カ國々防國策ノ上ニ最も力強キモノヲ添ユ。例ヘハ教化ニ當リテ聖戰ノ意義ヲ示スハ、最も崇高ナル且ツ基本的ナル役割ヲ果スコトニナルヘシ。

2632